

発表の部であるポスター発表・分科会では、日本物理学会と同様の形式で行いました。夏学参加者の多くは発表経験の少ない学生であるため、自分の研究成果を多くの人へわかりやすく発表する練習の場として、また同分野の人と研究の情報交換をする場を提供するための企画となっております。ポスター発表では、発表希望者は全員発表することができ、各自に A0 の大きさのスペースが与えられます。発表者は持参のポスターを前に意気揚々と発表に赴いていました。ポスター発表では当日に飛び入りでの発表も認めており、今年も多くの飛び入り発表者を見受けることができました。またポスターは夏学期間中ずっと掲示することができたため、多くの参加者がポスター発表の時間とは別にそれぞれの空き時間にポスター前でディスカッションしていました。

分科会は一人あたりに発表時間 10 分と質疑応答 5 分が与えられる口頭発表の場です。それぞれの発表には発表の内容を評価するアンケートがあり、聞き手からの指摘を発表後に確認して次の発表に活かすことができます。また招待講演の枠も設けてあり、表 2 にある 6 人の招聘講師に講演していただきました。招聘講師の方々とディスカッションすることによってその分野の最先端の研究を知ることができます。

表 2：分科会の招聘講師・演題一覧

企画	講師(敬称略)	演題
分科会招待講演 (講演 30 分+質疑 10 分)	岡田佳憲	走査トンネル顕微鏡による遷移金属酸化物薄膜の電子状態イメージング
	酒井志朗	銅酸化物高温超伝導体の動的電子構造の数値計算
	辰巳創一	単純ガラスの熱容量から見るガラス転移の向こう側
	新見康洋	スピン流で観る物理現象
	星野晋太郎	多軌道強相関電子系におけるエキゾチック超伝導
	渡辺宙志	大規模計算による非平衡研究の可能性

ポスター発表、分科会とは別に発表の部にはグループセミナーという企画も存在しております。グループセミナーは 57 人の班に分かれ、自身の研究をセミナー形式で発表し、ディスカッションを行うという企画です。ポスター発表、分科会が同分野どうしでの交流を主としているのに対し、グループセミナーは異分野間での交流に重きを置いております。班員の構成が異分野どうしであるため、参加者は自分の分野から離れて新しい知見を得ることができるのがグループセミナーの特徴です。

交流の部には懇談会と座談会が設けられております。特に座談会は昨年度の第 59 回から始まった新しい企画です。事前に参加者から募った質問を招聘講師の方々にお酒を交えつつぶつけるというのが座談会の内容になっています。今年の座談会での質問の内容は「研究者になろうと思った時期ときっかけ」や「研究へのモチベーションの維持の仕方」、「研究に行き詰まったときのリフレッシュの仕方」など研究に対する心構えのようなものから、人生の選択や研究者の恋愛に関して等さまざな質問が飛び交いました。講師の方々と参加者の距離も質問の回数とお酒が進むにつれて縮まっていき、非常に盛り上がる企画となりました。

以上の企画は表 4 の日程で行いました。

2 物性若手夏の学校の魅力

物性若手夏の学校には日本物理学会で数多くの領域を有する物性物理の分野を専門とする学生が参加します。加えて、最近では物性物理の分野のみに留まらず、化学や生物の分野の学生も参加する傾向にあり、参加者の分野は多岐に渡っております。物性若手夏の学校の特徴の一つとして、普段接することのできない異分野の学生と議論することで新鮮な見解を得たり、参加者自身の研究へのモチベーションを高め今後の研究活動の糧を得たりすることができます。また 18 名もの招聘講師に講演を依頼しており、参加者は自分の興味に応じて聴講を自由に選択することができます。特に講義レビューで自分の専門ではない講演に惹かれる学生も少なくなく、実際に第 60 回においても事前に撮ったアンケートとは異なる講義に参加した学生も多く見受けました。3 日に渡る濃密な講義や空き時間のディスカッション、毎晩開催される

表 4：第 60 回物性若手夏の学校決算

収入の部	
公的機関からの援助	1,033,475
材料科学技術振興財団	100,000
京都大学基礎物理学研究所	442,450
東京大学物性研究所	294,492
東北大学金属材料研究所	196,533
地域助成金	0
企業等協賛金	1,415,000
参加費その他	708,000
テキスト収入他	82,427
小 計	3,238,902
第 60 回のための準備金	1,037,077
合 計	4,275,979

支出の部	
講師招聘費	448,750
世話人援助費	516,820
参加者援助費	0
印刷費	585,629
テキスト印刷費・郵送費	463,116
ポスター印刷費・郵送費	62,208
当日印刷物印刷費・郵送費	60,305
企画運営費	675,919
準備局経費	748,717
小 計	2,975,835
第 61 回のための準備金	1,300,144
合 計	4,275,979

貴研究所からのご支援は「テキスト印刷費・郵送費・及び貴研究所よりお借りしたポスターボードの運搬費の一部」という支出に対して使用させて頂きました。どちらも本物性若手夏の学校の主要企画である講義、集中ゼミ、ポスターセッションに欠かせない支出となっております。貴研究所の夏の学校へのご支援を心より感謝致します。また、ポスターボードを貸していただいたことも重ねて御礼申し上げます。今後とも物性若手夏の学校へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



図 1：講義中は質問が飛び交い、活発に議論が行われていた



図 2：各々が興味のあるポスターの前で発表者と意見を交換する



図 3：異分野感でのディスカッションは自身の今後の新たな着想を得る



図 4：普段は聞くことのできない講師陣の体験談なども聞くことができ、参加者も身を乗りだして聞いていた